

教育目標

「自分で考え、自分で動き、意欲をもって遊ぶ子どもの育成」

○自己を発揮する子ども ○人とつながることを喜ぶ子ども ○主体的に遊ぶ子ども

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

- ・子どもの生きる力を育むことを念頭に、一人一人の個性や発達を大事にしながら、子どもが主体的に遊びこむ姿を目指した保育に取り組んできた。
- ・子ども個々の良さや集団の育ちを丁寧に見取り、必要な教育内容を考え、質の高い保育をめざした。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭において、少人数保育という課題に向き合い、異年齢での関わりに焦点を当てた保育実践に取り組み、子ども個々の姿や態度に現れる場面が見られた。
- ・子どもの豊かな学びと健やかな成長のために、子どもを中心に据えた幼保小中連携、とりわけ幼小接続に向けた取組を充実・継続・発展させていくことが重要である。
- ・これからの激動の時代を生き抜く子どもを育むには、自ら主体的に物事にに関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育むことが基盤である。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・子ども自ら考えて行動する姿がたびたび見られ、友達にも自ら関わりつながっている様子が見受けられる。
- ・園児数が少なく少人数保育という課題に直面するも、異年齢での関わりに焦点をあてた保育実践の創意工夫により、本園の教育目標は概ね達成されたと評価できる。
- ・元気に生き生きのびのびと走り回る子どもたちの姿を見られるこの幼稚園を大切にしていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年10月18日	学校運営協議会委員
最終評価	令和6年3月6日	学校運営協議会委員

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について**具体的な取組**

- ・少人数の中で子どもの育ちを豊かにするために
～異年齢での関わるの場면을捉える～
- ・週計画案と保育実践、評価の連動（PDCA）から、日々の保育の充実を図る。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- ・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」「子どもは安心して幼稚園に通っている」「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」

中間評価

	各種指標結果 ・ 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 ・ アンケート項目 「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」…100% 「子どもは安心して幼稚園に通っている」…100% 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」…100% 「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」…100%
自己評価	分析（成果と課題） ・ 指導者が目指す子ども像を見据え、願いや意図をもって環境構成したり、子どもの遊びを援助したりすることで、主体的に遊ぶ子どもや他者と折り合いをつける子どもを育む保育につながっている。 ・ 少人数の中で、子どもの育ちを豊かにするために、異年齢での関わりの場面をとらえ、見取り評価することで、子どもの変容や保育の改善につながりつつある。 分析を踏まえた取組の改善 ・ 少人数の中で、異年齢での関わりの場面をとらえ、見取り評価することを通して、子ども理解を深め、子どもの豊かな学びにつながる取組を進めていく。 （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・ 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 ・ アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」「子どもは安心して幼稚園に通っている」「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ すべての子どもを受け入れ、保育し、子どもたちは相互に豊かに学び合っている姿が見られる。 ・ 少人数の保育の研究で、金太郎飴ではない新たな価値や少人数ならではの意義を見出してほしい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・ 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 ・ アンケート項目 「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」…93.3% 「子どもは安心して幼稚園に通っている」…100% 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」…93.3% 「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」…93.3%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・ 教職員同士が意識的に接点を多くもつ姿を見せたり、相手のクラスの子とも積極的に遊んだりすることで、子どもたちも安心して両クラスの担任・クラスに親しみを感じながら関わることができた。 ・ 子どもたちの姿を教職員同士で共有することで、担任だけでは気付きにくい子どもの姿を知ることができた。

	・少人数での継続的な関わりがあることで相手のことがよく分かり、気の合う異年齢の関係が生まれた。 ・少人数では遊びの活気が生まれにくい、少人数であるからこそ自分発信の遊びの経験を一人一人ができ、それが子どもたちにとっての誇りや充実感につながった。 ・5歳児は、上手くしなければならぬと考えすぎて苦手意識をもつ遊びや活動でも4歳児とともに経験することでやってみようと思えたり、4歳児が5歳児のしていることに憧れを感じる姿を見て自信をもったりするなど、生活の充実につながった。 ・4歳児は、5歳児とともに過ごす時間が多いが、あえて5歳児の生活の姿を見せない時間もつくることで5歳児は何をしているのか、5歳児になったらこんなことができるのかと憧れを感じ、進級に期待感をもつことができた。 ・次年度も5歳児7名、4歳児11名と人数は少人数である。
	分析を踏まえた取組の改善 ・次年度も少人数であるため、異年齢での関わりは必要不可欠である。次年度も異年齢での関わりを意図的につくりたい。 ・次年度は4・5歳児の担任だけでなく教職員全員で子どもの姿を簡単に記入できる様式を考え、たくさんの視点から子どもの育ちについて協議していきたい。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭において、少人数保育という課題に向き合い、異年での関わりに焦点を当てた保育実践に取り組み、自ら主体的に物事にに関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育む保育をめざしたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・幼稚園アンケート結果と意見から、本園の教育目標は概ね達成されている。 ・少人数保育という課題に対峙し、意図的に異年齢での関わり場面を捉え、子ども一人一人の姿を見取り、子どもの主体性を育む実践研究は、先進的であり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に現れるなど、功を奏している。

（２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組 ・年間交流計画の作成 ・通園区域内にある保幼小中学校への保育公開及び合同研修 ・架け橋期のカリキュラムの作成と検討 ・「親子で絵本！」の取組の定着
（取組結果を検証する）各種指標 ・交流の事前・事後の検討 ・公開保育及び合同研修の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」

中間評価

各種指標結果 ・二条城北小学校交流…幼保小連絡会、1年体育授業参観 ・二条中学校交流…チャレンジ体験、体育祭見学と競技参加
--

	・公開保育及び合同研修の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目 「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」…93.3% 「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」…100%
自己評価	分析（成果と課題） ・年度当初幼小連携の取組を計画し、小学校での幼保小連絡会をもち、子どもを中心に据えて教員同士が交流することができた。 ・本園児が二条城北小学校1年生の体育科授業を見学し、幼児と児童の交流の場を設けることができた。 ・二条中学校のチャレンジ体験で中学生と園児の関わりや本園児が二条中学校体育祭を見学、そして1種目の競技に参加し、幼児と生徒が交流することができた。 ・「ほっこり子育て広場」や「保護者懇談会」などを通して、「親子読書」の取り組み方についても話し合える場を保障する。 分析を踏まえた取組の改善 ・二条城北小学校の学習発表会の見学や生活科の学習交流、入学前のビデオレターなど、幼小連携接続の取組を進める。 ・近隣の就学前施設と二条城北小学校に働きかけて、2月1日に本園で幼保小連携公開保育研修会を実施する。 （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・交流の事前・事後の検討 ・公開保育及び合同研修の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・「地域の子どもは地域で育てる」の理念のもと、公立幼稚園は、公立小学校・中学校と同様に地域にある幼稚園として、子どもの学びと育ちにつながるための交流を、特に教員同士の交流の場をもち、相互理解を深めてほしい。 ・「親子で絵本！」の取組を創意工夫して続けてほしい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・二条城北小学校交流…生活科発表会と給食交流会、アートフェスティバル鑑賞会、学習発表会 ・公開保育及び合同研修の実施…幼保小連携接続公開保育と研修会 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目 「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」…100% 「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」…100%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・2月2日（金）に幼保小連携接続公開保育と研修会を実施し、二条城北小学校1年生担任3名と育成学級担任1名、難聴学級担任1名の参加があり、幼稚園教育と小学校教育の違いをそれ

価	ぞれ認識し、子どもの目線に立った子どもの主体的な学びと育ちについて、話し合うことができた。 - 生活科発表会と給食交流会やアートフェスティバルなど、5歳児と小学校1年生、5歳児と小学生との交流をもつことができ、5歳児は、個々の感想から、小学校生活への不安感は減り、期待感が強まったようである。 - 学習発表会には、4・5歳児が参加した。
	分析を踏まえた取組の改善 5歳児の入学する各小学校との幼保小連絡会を完全実施するようにしたい。 - まだ実施できていない地域近隣の幼幼・幼保連携を働きかけ続けていきたい。 「親子で絵本！」のノート活用100%を継続して取り組みたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 「親子で絵本！」の取組は素晴らしい。 - 子ども目線の幼保小連携接続の取組は大変重要であり、今後も継続して発展的に取り組んでほしい。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組 - 個々の興味に応じた遊びをゆったりと安心して楽しく過ごせる環境構成を行う。 - 教育課程内の活動と連動した遊びや季節感のある活動内容を取り入れる。 - 地域人材の活用
(取組結果を検証する) 各種指標 - 預かり保育参加人数 - 預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り。 - アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」

中間評価

自己評価	各種指標結果 - 預かり保育参加人数…15人中14人参加 - 預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り。 - アンケート項目 「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」…93.3%
	分析（成果と課題） 4歳児6名、5歳児9名の少人数学級であり、保護者の多くは、異年齢の子ども同士の関わりや同性の子ども同士の関わりなどを預かり保育に期待されている。 - 預かり保育担当者と担任で、個々の子どもの様子や家庭との連携など情報共有し取組に生かすことができた。
	分析を踏まえた取組の改善 預かり保育時の子どもの遊びや子ども同士の関わりを豊かにするために、ボール遊びの外部講師を招くなど、実施可能な取組を進める。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 預かり保育参加人数

	・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り ・アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもが安心して、個々の興味に応じた遊びを、ゆったり楽しく過ごせているので、良好な園運営がなされている。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・預かり保育参加人数…15 人中 15 人全員参加 ・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り ・地域人材の活用…外部講師を招きサッカー教室開催 ・アンケート項目 「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」…100%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・今年度より未就園児いちご組 3 歳児預かり保育を実施することになり、保護者から多くの喜びの声があがり、後期には、未就園児いちご組の子どもの多くが預かり保育を利用している。 ・アンケート結果の 100%から、子ども主体・子どもが中心の活動を保障する場を提供することができた。 ・小規模園の多様な子どもとの出会いや関わりが少ないという悩み解決の一助として、異年齢や同性の子ども同士の関わり場の場を保障することができた。 ・外部講師を招いたサッカー教室開催時は、子どもたちにとって魅力的で、参加者数が増えた。 分析を踏まえた取組の改善 ・今後も小規模園として、預かり保育での異年齢や同性の子ども同士の関わり場の場を保障する。 ・サッカー教室など、外部講師を招いた教室を実施可能な範囲で取組を進めていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・異年齢の子ども達が関わり合って、ゆったり安心・安定して遊べる預かり保育の場と時間、機会が保障されていて、その良さが活かされている。 ・「待賢カーニバル」のバザーでの収益で招いた外部講師によるサッカー教室の開催は、地域人材活用として、子どもたちにも、地域にとっても有意義である。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組 ・未就園児親子を対象とした教育相談の実施 ・幼稚園生活や保育内容説明会での先輩ママと触れ合い ・未就園児親子を対象とした、在園児や 地域の方と触れ合える取組 (七夕のつどい、運動会、楽しいつどい、水遊びへの参加など) ・身長や体重を測り、親子で成長を喜び合う。
(取組結果を検証する) 各種指標 ・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数

中間評価

	各種指標結果 ・未就園児との交流…運動会に参加 ・子育て支援の取組の回数…30 回（4 月～9 月） ・ひよっ子クラブ参加人数…のべ 143 人、1 回あたり 4.8 人（4 月～9 月） ・教育相談（いちご組）件数…84 件（4 月～9 月）
自己評価	分析（成果と課題） ・4 月中旬からはほぼ毎月曜日と木曜日（10：00～11：30）は、子育てボランティアの協力により、未就園児 0 歳～5 歳のひよっ子クラブや 3 歳未就園児親子のいちご組（月曜日～金曜日の 9：00～11：30、9：00～13：40）を通して、子育て支援に関わる教育相談を継続して実施することができた。 ・月曜日～金曜日 9：30～15：00（12：00～13：00 を除く）の園庭開放は、降園時の短時間利用が少なくなかった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、ホームページや地域へのチラシ・ポスターの配布、区役所のチラシ配架など、広報活動を継続して取り組む。 ・公立幼稚園プロモーションビデオ配信や QR コードを掲載など、情報発信する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数 ・未就園児保護者に対するアンケート実施
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・乳幼児の早期段階から就学前施設探して、0 歳から 3 歳の早い時期から保育を希望する保護者が増えてきている。 ・子育て支援の取組には、今後も地域や OB が協力していきたい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・子育て支援の取組の回数：34 回（10 月～3 月） ・ひよっ子クラブ参加人数のべ 216 人、1 回あたり 6.4 人（10 月～3 月） ・教育相談件（いちご組）件数：100 件（10 月～3 月）
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・ひよっ子クラブ参加人数が、前期 1 回あたり 4.8 人から、後期は、1 回あたり 6.4 人と参加人数が増えた。 ・いちご組実施件数は、昨年度 151 件から今年度は 194 件と、43 件増えた。 ・今年度より未就園児いちご組 3 歳児預かり保育を実施することになり、子育て支援の側面から、保護者の多くの喜びの声があがった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、これまで通りホームページや地域へのチラシ・ポスターの配布、区役所のチラシ配架など、広報活動を継続して取り組んでいく。 ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組への参加が年々減少傾向にある点については、公立幼稚園プロモーションビデオを活用したり、QR コードを上京はぐくみだよりなどに掲載したりして、情報発信する。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ひよっ子クラブは、保護者同士の交流や待賢幼稚園の温かい雰囲気を感じてもらい、子育ての不安や負担を軽減する役割を果たしている。 ・子育て支援のいちご組は、はな組入園に向けて、かなりの取組回数が増えて大変よい。 ・本園における子育て支援は特筆すべきものであるが、それが園児数増加に結び付いていない点は、憂慮すべきことである。
---------	---

（５）地域との関わり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ○学校運営協議会 3 企画委員会の取組の検証 A. 親子の学びプロジェクト ・もちつき、絵本室の整備・貸出、子育て支援センターとしての活動等を行う。 B. からだ元気プロジェクト ・親子遠足、運動会の競技、冬のマラソン等を行う。 C. 連携プロジェクト ・幼小中交流、中学校チャレンジ体験受け入れ、グリーンストア等を行う。 ○地域資源を活かした指導計画作成	
（取組結果を検証する）各種指標 ・交流の回数や地域の方々の声 ・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」	

中間評価

各種指標結果 ・グリーンストア…地域の方々と花や野菜の苗をプレゼントする交流 ・7月7日七夕の集い…地域のお年寄りとの交流 ・二条城北小学校交流…幼保小連絡会、1年体育授業参観 ・二条中学校交流…チャレンジ体験、体育祭見学と競技参加 ・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」…93.3%	
自己評価	分析（成果と課題） ・グリーンストアや七夕の集いの地域の人々や保護者の方々との交流を通じて、言葉のやり取りや一緒に物を作るなど、子どもの学びの場となった。 ・地域にある小中学校の児童や生徒と園児との交流を通して、園児にとって児童や生徒が憧れやモデルの存在になる。 ・昨年度のアンケート結果 91.3%が、今年度 93%と、コロナ禍、地域行事等中止になった時に比べ、子どもは地域や地域の方に親しみをもっている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・地域行事への参加や協力体制のあり方には、地域とのつながりを大切にしながら、PTA とともに過重な負担にならないよう検討し、改善を図る。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・交流の回数や地域の方々の声 ・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・待賢諸団体や二条中学校、待賢幼稚園 OB、地域の人々の協力のもと、4 年ぶりに待賢カーニバルを実施することができ、地域にある幼稚園としての存在をアピールできた。 ・待賢幼稚園児のダンスや歌や二条中学校の吹奏楽の演奏では、子どもたちが地域の人々の前でいきいき活動する場面があり、それらを見守る保護者や地域の方々の姿があり、地域の一体感が感じられた。
---------	--

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・地域のお年寄りとの交流…3 月 1 日ひなまつの集い ・二条城北小学校との交流…幼保小連携接続公開保育と研修会、生活科発表会と給食交流、学習発表会、アートフェスティバル鑑賞会 ・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」…80%
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・アンケート項目「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」が、前期 93.3%から、今回 80%に減少している。地域や地域の方に接し関わりつながる機会が少なくなっていることが要因であると考えられる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・コロナ禍以前の地域の方々との交流の機会を保育の充実という観点から、地域の人々と関わる取組を適切に増やしたい。 ・地域の方々と直接関わる機会をもつことが難しい場合、ICT 機器を活用して取組を進めたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学校園が地域のコミュニティーを支えるプラットフォームとしての役割を担ってほしい。 ・核家族化の今、年老いた方と接することは、とても大切で、老人の方も毎年 3 月お雛祭りを楽しみにされていて、実施できてよかった。 ・地域との関わりが本当に少なくなった。今後積極的に幼稚園との連携を図りたい。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	・心身ともに健康で、安定・充実した仕事ができるように、個々にそして組織的に工夫して、働き方改革を推進する。
具体的な取組	・ノー残業デー（毎水曜日）と 18 時までの電話対応時間の徹底 ・業務共有ホワイトボードを活用し、校務支援員やボランティアと連携して業務を遂行する。 ・年休取得日数を前年度より増やす。
(取組結果を検証する) 各種指標	・教職員の時間外勤務時間「1 月あたり平均 3 0 時間以内」 ・年休取得日数「1 人あたり 1 0 日以上」

中間評価

各種指標結果	・教職員の時間外勤務時間「1 月あたり平均 3 0 時間以内」…「1 月あたり平均 30 時間 10 分」
---------------	---

・年休取得日数「1人あたり10日以上」…「1人あたり平均5.5日」	
自己評価	分析（成果と課題） ・教職員の働き方改革に向けて、教職員の意識改革と具体的な取組に努めた結果、時間外勤務の縮減につながってきている。ただし、管理職の時間外勤務時間は、業務と勤務時間のずれが生じており、縮減には至っていない。
	分析を踏まえた取組の改善 ・管理職の時間外勤務時間縮減に向けて、実効ある取組を行う。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」 ・年休取得日数「1人あたり10日以上」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・全国的に教員採用試験倍率の低下が問題で、公教育の危機と言っても過言ではない。主な要因に、教員の長時間労働や仕事量の多さ、精神的ストレスがあげられる。実効ある働き方改革の推進が求められている。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・教職員の時間外勤務時間目標「1月あたり平均30時間以内」…「1月あたり平均40時間30分」 ・年休取得日数目標「1人あたり12日以上」…「1人あたり平均11.7日」	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・教職員の時間外勤務時間目標「1月あたり平均30時間以内」だが、結果は「1月あたり平均40時間30分」と増え、時間外勤務時間縮減が達成できていない。 ・年休取得日数目標「1人あたり12日以上」も、結果は1人あたり平均11.7日」と目標日数取得に至らなかった。 ・教職員の働き方改革に向けて、意識変革と具体的な取組を施してきたが、専任教頭不在で教頭が担任している状況を例に、人的環境、人員配置に課題がある。
	分析を踏まえた取組の改善 ・取組の「量」ではなく、「何のための取組か」という「本質」に立ち返って、取組を見直し実施していく。 ・行事や取組について、復活や前倒し、スリム化など、教職員体制を考慮しながら、子ども達の豊かな学びと健やかな成長のために、柔軟に対応実施していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子育て世代の孤立と密接な関係があると思われるが、子育て相談等で教職員の負担が増大せざるを得ない現状を考えても教職員の健康は重視すべきであり、「働き方改革」は、推進されなければならない。 ・人手不足の中、求められることが多く、ついつい頑張りすぎる教職員が疲れると、子ども達に笑顔が見せられなくなるので、いろんな方法、やり方で、働き方改革が推進されることを望む。 ・地域の方々のボランティアの力を借りるなど、私たち地域の者も応援したい。